

法政大学第一高等学校同窓会報

(題字は小川校長筆)

本会は母校の発展を願う卒業生が相互の親睦をはかり連絡を密にし、互助の実をあげることを目的とする。
(規約第2条)

編集人 黒澤允孔 (同窓会・広報委員長)
発行人 大石勝康 (同窓会・会長)
発行所 法政大学第一高等学校同窓会
印刷 コミナミ印刷株式会社

1996年(平成8年)4月25日(木) [発行] 第21号
〒180 武蔵野市吉祥寺東町3-5-7 ☎0422-20-8151

母校創立 六十周年を迎えて

一高同窓会会長 大石勝康



大石会長

平成八年四月、新年度を迎えて会員の皆様にはますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。平素は同窓会のためにご協力を賜り心から厚く御礼申し上げます。今年、我が母校は創立六十周年を迎えました。(下段参照) 顧みますれば、五十年前戦災で焼け出された市ヶ谷の校舎をあとに、現在の武蔵野の地に移転して来た時のご苦労、今、走馬燈の如く思い出されてまいります。

それは決して平坦な道程ではなかったと思います。歴代の校長先生をはじめ教職員の方々PTA、PTAOB会の方々、同窓会会員の皆様がこつこつと地道に積み上げてこられたご努力があればこそ、今日の伝統ある我が母校が存在すると思えます。

さて、只今法政大学では、一昨年発足いたしました「21世紀の法政大学審議会」の答申が行われており、その十八項目の中の第三番目に「大学と附属校の関係」として附属校が大きくクローズアップされております。

我が校の小川校長先生も、附属校を代表してこの審議会に加わり「中、高、大一貫教育としての附属校の立場、これからは量より質の時代、中、高の質を高めて、その生徒を大学に送り込むことにより、大学で、学生として中心的な役割をしっかりと展開していく必要がある」と附属校の存在を多いにアピールされております。

大学の理事からも「今後、附属校から来た学生たちが、法政大学全体のレベルを押し上げるような役割を担ってほしい」という積極的なご意見もありました。

このような意味からも、我が同窓会の基盤をより一層確固たるものにしておかなければならないと思えます。

また、今年は丁度、法政大学評議員の改選が行われる年でもあり、今までの選任制度を廃止し、我々附属校の卒業生にも選挙権が与えられ、満25歳以上の全法政卒業生30万人による総選挙で28名の評議員を投票により選出することになりました。今までの「金権選挙」を払拭し、真剣に大学の改革、大学の再建に取組まねばなりません。

そこで我が法政一高からも附属校の意見代表として評議員を送り込もうということになり、四月三日に行われました法政一高同窓会のクラス委員総会で推薦をいただき、不

そして六十周年を迎えた今日、法政大学の附属校として「自由と進歩」「自主自律」の校風の学校として、ますます充実し、発展いたしておりますことは、誠に喜ばしい限りでございます。

先日、三月十二日の卒業証書授与式では、二六七名の優秀な生徒がめでたく卒業し我が同窓会の会員になられました。この新しい会員を含め、我が同窓会会員は約一万九千人の大台を越え、ますますその友好の輪が大きくなってまいりました。

高の質を高めて、その生徒を大学に送り込むことにより、大学で、学生として中心的な役割をしっかりと展開していく必要がある」と附属校の存在を多いにアピールされております。

大学の理事からも「今後、附属校から来た学生たちが、法政大学全体のレベルを押し上げるような役割を担ってほしい」という積極的なご意見もありました。

我が同窓会の基盤をより一層確固たるものにしておかなければならないと思えます。

また、今年は丁度、法政大学評議員の改選が行われる年でもあり、今までの選任制度を廃止し、我々附属校の卒業生にも選挙権が与えられ、満25歳以上の全法政卒業生30万人による総選挙で28名の評議員を投票により選出することになりました。今までの「金権選挙」を払拭し、真剣に大学の改革、大学の再建に取組まねばなりません。

我が法政一高からも附属校の意見代表として評議員を送り込もうということになり、四月三日に行われました法政一高同窓会のクラス委員総会で推薦をいただき、不

母校創立60周年記念 同窓会総会開催

日・時 '96年6月29日(土)
午前 11:00~11:50 総会
午後 12:00~14:30 祝賀懇親会

場所 赤坂プリンスホテル
クリスタルパレス

会費 1万円、同伴者5千円
(卒業年度によって、8千円、6千円)
(詳細は3面をご覧ください)

当私が評議員に立候補いたすことになりました。(三面参照) 今回の選挙は、我々附属校にとって、初めて与えられた大事な選挙です。同窓会会員の皆様方のご理解とご協力により、是非、評議員にご推挙賜りますようお願い申し上げます。

なお、今後の同窓会の運営につきましては、昨年に引き続き地道に、次の諸事項の遂行を図りたいと思えます。

一、組織の強化拡充(会員の掘り起こしと住所の解明)

二、会費の徴収その他による財務の安定化(このところ会

費お振込みの際、五千元、一万円という多額のご寄付を頂き、深く感謝申し上げます) 三、同窓会会報の定期発刊と内容の充実(皆様のご協力により記事も多くなっておりますが、まだまだ各クラス会、各部OB会などの情報が少ないので、どんなに少人数の集いの情報でも結構です。お寄せください)

今後も更に同窓会発展を図るべく努力いたす所存でございます。会員の皆様の深いご理解とご支援ご協力を心からお願い申し上げます。

柔軟な頭脳を持ち

自己判断が出来る生徒を

—二十一世紀に向かって、世界の変化と
心・精神の時代に対応できる生徒を育てる—

同窓会名誉会長 一中・高校長 小川純一郎

同窓会の会員の皆様、常日頃、学校に対して、ご援助、ご協力を賜りまして誠に有難う御座います。心より感謝申し上げます。

世界の政治・経済においても、日本の政治・経済においても、先を見通すことが困難な状況です。

しかし、現在在学中の生徒



小川校長

たちは二十一世紀に世界に向かって羽撃かなければならぬことは事実です。

二十一世紀はインターネットやマルチメディアの情報化の時代、地球環境に優しい人間と自然が共生しなければならぬ時代、人類が民族問題や宗教問題を克服して国境を越えた国際化社会の時代、ま

た一方、生涯学習の時代であると言われていきます。

このような時代に対処して行くためには、社会の変化に主体的に対応できる柔軟な頭脳を持った能力が要求されます。

そこで、生徒には、困難に立ち向かう強い意志、問題解決に積極的に挑む知的探求心、主体的に目標を設定し必要な知識や情報を活用できる柔軟な頭脳や能力が要求されますので、基礎的な知識や能力をしっかりと身に付けさせなければならぬということが課題であると考えています。中学生から高校生にかけての時期は、自分の基礎学力を築き、自己の中に内在している内発性を揺り覚まし、学び方を学び取り、自分の可能性を自分の手で見付け出し、研ぎ、自己判断が出来る基礎を身に付けさせるように教育をしていく必要があります。

第15回総会(創立60周年記念) 総会開催について

総会準備委員長 黒澤九孔



黒澤準備委員長

江戸時代の学者の佐藤一斎は言志四録の中で「学は立志より要なるはなし、而して立志もまたこれを強いるに非ず、只本の好む所に従うのみ」と言っております。この言葉を優しく言い換えると「学問をするには、目標を立てて、心を振るい立たせることが肝心である。しかし、心を振るい立たせると言っても外から強制されるのではなく、自分の本心からやらなければ駄目

である。」ということですが。何かをやるうとするときには、自分の本心からということが大切で、心理学で言う内発性を促すことが重要な鍵になります。

わが校の教育目標の「自主・自律」の精神を身につけ、自分の人生は自分自身で考え自分の責任において自己決断し、自らの力で切り開いて行けるような人間に育てたいと考えています。

また、今回はご同伴の方をお連れ下さることを歓迎いたしますので、「法政ファミリーの集いの会」のような楽しい雰囲気になればと念じております。

社会全体が何となく不透明な感のある時代ですが、このような時こそ、心の友である同窓生、同期生に会われて、お互いの近況やら夢を話し合われてはどうでしょうか。三年ぶりの開催で話も山ほどあることと思います。当日は記念品として校章入りのアクセサリを出席会員の方に、また母校へは同窓会

よりホールクロックの寄贈を予定しております。ご出席下さる方は、準備の都合上、本紙同封の振替用紙で必ず期限内にお申込み下さい。

「一中・高の現況」

一中・高教諭 矢口五郎

昨年四月にコーチ委嘱の会合を開き、各部コーチの皆さんに集まっていたいただきました。席上、部員の傷害対策や活動条件の整備など、貴重な意見要望が出されました。ご意見をもとに、学校として引き続き努力をして行きます。

*生活文化科の授業

家庭科が男子にも必修となり、本校では生活文化科として'95年度から高2で授業が始まっています。「食の文化」の学習で調理実習が行われましたが、戸惑いながらも生徒は意欲的に取組んでおり、授業を通して自分達の食生活を見直すなど、大きな効果をあげています。

*クラブ・コーチの会合

OBの皆さんも含め、部活動を指導している方々に、学校として僅かですが謝礼を出すことにしました。それに伴

皆様のご出席を重ねてお願いいたします。
(高校3期卒・同窓会 広報委員長)

*グラウンド用地取得

昨夏、大グラウンド、センター部分一五七㎡の隣接地を買収することができ、グラウンドがやや広くなりました。早く使えるようにしたいと考えております。

◎文化祭を初めとする校内外の諸行事や、海外に中高生が行くなど、教育活動は活発に行われています。中庭のプラタナスも樹高10mになり、若い職員も増えて、新生法政一中高の胎動を感じます。

今年創立六十周年、ぜひ同窓生の皆さんも母校に来ていただき、後輩を激励してください。

平成7年度 同窓会 クラス委員総会開催

平成7年度の委員総会は、7年6月7日に市ヶ谷アルカディア会館で、42人の各期クラス委員出席のもと開催されました。当日は名誉会長(一高校長) 小川純一郎先生、事務長の森嶋広先生のお二人にもご出席いただき、鈴木総務委員長の司会で始まりました。議事議題は次の通りです。

- 一、平成6年度事業報告の件
- 二、決算報告
- 三、監査報告
- 四、平成7年度事業計画
- 五、予算案
- 六、平成8年度第15回総会開催ならびに創立60周年記念祝賀会開催準備の件
- 七、その他

総会は順に一、より議事に入り、一、につきまして前田副



平成7年度委員総会

法政一高同窓会・平成6年度収支決算書

会計監査 片庭伸一
平成7年6月7日

(平成6年4月1日～7年3月31日)

収入の部				(単位 円)
科目	項目	予算額	決算額	差異
繰越金		5,476,663	5,476,663	0
会費		3,575,000	3,013,000	562,000
(イ)	入会金	849,000	849,000	0
(ロ)	新入会員年会費	566,000	566,000	0
(ハ)	年会費	2,000,000	1,340,000	660,000
(ニ)	その他会費	160,000	258,000	△98,000
雑収入		50,000	76,470	△26,470
繰入金		300,000	0	300,000
繰入金		300,000	0	300,000
計		9,401,663	8,566,133	835,530

支出の部				(単位 円)
科目	項目	予算額	決算額	差異
経常費		1,615,000	974,350	640,650
(イ)	学校協力費	250,000	202,498	47,502
(ロ)	会議費	500,000	277,791	222,209
(ハ)	組織活動費	200,000	0	200,000
(ニ)	印刷費	50,000	21,648	28,352
(ホ)	通信費	200,000	71,103	128,897
(ト)	人件費	345,000	345,000	0
(チ)	事務用品費	20,000	0	20,000
雑		50,000	56,310	△6,310
事業費		2,300,000	2,074,191	225,809
(イ)	会報発行費	2,000,000	1,669,098	330,902
(ロ)	委員総会費	300,000	405,093	△105,093
予備費		300,000	40,000	260,000
予備費		300,000	40,000	260,000
小計		4,215,000	3,088,541	1,126,459
次年度繰越金		5,186,663	5,477,592	△290,929
合		9,401,663	8,566,133	835,530

会長より「6年4月7日入学式に役員出席。5月24日役員会開催。6月8日委員総会開催(出席65人)。8月21日野球部紅白試合を激励。10月1日プラタナス祭見学。7年1月18日新年役員会開催。2月4日附属校同窓会役員懇親会に出席。3月10日47期卒のクラス委員に説明会開催。3月14日卒業式に大石会長、役員が出席祝辞を述べた」以上の報告がありました。

- 二、決算報告は櫻原財務委員長が行い、承認されました。
- 三、監査報告は片庭会計監査が行い、承認されました。
- 四、事業計画は大石会長が行い、8年開催の総会を主とした計画を説明しました。
- 五、予算案は川城副会長より

大石会長、法大評議員に推薦され、立候補表明

平成8年度の同窓会クラス委員総会は、第15回総会開催の準備などの都合で、例年より二か月ほど早く4月3日に開催されました。

議事は平成7年度の事業・決算・監査報告、8年度事業計画・予算案、同窓会規約・

提案され承認されました。

- 六、総会および創立60周年記念祝賀会の準備委員長には黒澤広報委員長が選出され、同委員長は直ちに準備に入るの意思表明をしました。

会はその後、懇親会に入り、午後9時に閉会されました。

(黒澤)

平成7年度収支予算書(案)

平成7年6月7日

(平成7年4月1日～8年3月31日)

収入の部				(単位 円)
科目	項目	予算額	内訳	
繰越金		5,477,592		
会費		3,250,000	新入会員予定282名と既会員分他	
雑収入		50,000	預金利息、その他	
繰入金		300,000		
計		9,077,592		

支出の部				(単位 円)
科目	項目	予算額	内訳	
経常費		1,415,000	項目、平成6年度に同じ	
事業費	会報発行費	2,480,000	会報発行、委員総会開催費等	
予備費		300,000		
小計		4,195,000		
次年度繰越金		4,882,592		
合		9,077,592		

創立60周年記念 同窓会総会開催

平成8年6月29日(土)

赤坂プリンスホテルにて

総会・午前11:00より 懇親会・午後12:00より

母校創立60周年記念総会を開催いたします。会員皆様を初め、ご家族の方もどうぞご参加下さい。

—記—

会費 一万円
ご同伴者五千円

高校45期卒以降の方 八千円
高校48期卒の方 六千円

出席される方は同封の振替用紙にて、必ず5月28日までに申し込み下さい。

附属校同窓会 役員懇談会

なお、当日の議事審議の詳細は次号に掲載いたしますのでご了承ください。(黒澤)

第11回の懇談会は女子高の当番で8年2月24日に品川駅前ウィングで開催されました。当日は二高、女子高、一高の各校長先生も出席(総計27人)され、これからの附属校の役割、各校の現況などについてお話しをいただき、続いて、各同窓会の出席者全員から活発な意見、要望が出され各校同窓会の交流をさらに深めていくことを確認しました。

飛躍！
ラグビー部



祝 創立60周年

附属各校同窓会会長からの 祝福メッセージ

母校創立六十周年にさいして、全法政の附属校、同窓会会長の皆様から祝辞をいただきましたので、ご紹介いたします。これを機に附属校同窓会同士のますますの結束と発展を図りたいものです。各同窓会会長の皆様に厚く御礼申し上げます。

校歌に結ばれた 友情いつまでも

法政工高 同窓会会長 菅原宗一

我らは恃む純なる心
我らは励む実なる力
額に汗し生き行くことは
我らの命、上なき誇り
我らの道は明るく正し
自ら奮い自ら築く

私はこの校歌の法政工業定時に昭和12年入学、16年に卒業、現在74才で同窓会々長の任にあり、第一高校の開設60周年記念会報にお祝いを申し上げる事になりました。
実は今年の三月初め、地域の法友会仲間の懇親会が神楽坂であり、席が温まるほどに法政母校の校歌、応援歌が飛び出し、卒業後、数十年間の思い出を語り合いました。
会食後、誰言うことなく、飯田橋より母校法政大学前を通り緑の松茂るお濠端を歩きましたが、そこでも校歌、応援歌の合唱が続きました。
働きながら学んだ14歳、17歳当時、私は故郷松山出身の新聞記者を頼って四国から上京し、書生をしながら、昼間は国鉄本社で給仕、夜は法政工業に通う三足のわらじをは

いていました。その頃、走ることが好きだった私は、学校の駅伝選手を望みましたが、一、二年生では補欠、やっと三年生で正式メンバーになる事ができました。
ところが全国中等学校駅伝大会当日、第2走者に指名され、有楽町発の第1走者から中仙道板橋で引継いだのです。第1走者は中国の留学生、李君でトップに僅か四百米遅れただけで飛込んできました。
私は第2走者として「ようし！俺が追付き、追い越してやる」と意気込み二千米位走って後10メートルのところまで追付いた所で急に横腹の激痛に襲われ、とうとう歩き出すハメになり、受持の中間地区戸田橋では10名もに追い越され、12番に落ちました。歯をくいしばり泣きながら走って浦和市の第3走者にはやっと6位まで挽回して引継ぎました。
大宮から復路の第4、5、6走者が頑張ってくれ、主催の有楽町読売新聞社前のテープカットでは第二位、晴れの全国駅伝準優勝に入賞しまし

た。
その時の「あせるな！あわてるな！一ツ前をみて一歩一歩着実に走るのだ！」この学友の言葉は私の生涯、人生道への教訓として心の奥深く刻み込まれています。
私は工業高校卒業後、国鉄の電気工事設計部門職員となり兵役経験二年、終戦でまた国鉄に復職しましたが、昭和26年28歳の時、地元と同窓生、法友会の皆さん、国鉄給仕時代の仲間らに推され板橋区議会議員に立候補しました。
最年少でしたし、まさかの当選で慌てましたが、それから三期十二年を終え、都議会に転出、七期を勤め、都議会副議長の重責も果たして、二年前勇退したところです。
区議会、都議会併せて40年という永い議会活動でしたが私が法政の同窓であるというだけで方々の方が何かにつけて連絡をくれ、具体的な提案、忠告、議会に立寄り激励など寄せて下さり、一緒に考え一緒に行動してくれました。
それは校歌に結ばれた温かい友情の賜ものだと深く感謝しております。
私はすばらしい法政の同窓、友人が持てて幸せ者です。
お祝いの言葉が自分の思い

出話になってしまった事をお許し下さい。法政一高の開校一
六十周年を心からお祝い申し上げます。
法政一高同窓会役員の皆様
そして会員の皆様方、愈々ご健勝にて同窓会活動にご活躍のことと存じ上げます。
我が法政二高同窓会もお陰様にて役員はじめ会員皆様のお力添えを戴き、昨年六月、会長に就任以来順調に運営されております。付属高校として健全なる同窓会活動ができますのも母校愛に燃えた法政健児の心意気があってこそ、と……日頃の同窓会活動を通じて切実に痛感している次第です。
さて、本年は先輩校『法政一高』におかれましては創立六十周年を迎えられるとのこと、誠に御芽出度、慶賀の至りに存じます。
暦から換算しますと昭和十一年の開校ということになりましようか。一高、二高とも第二次大戦時の苦難な道を乗り越え、また戦後の荒廃した世相にも拘らず有名校になりましたのも、『自由と進歩』の校風による研学の精神があっ

創立六十周年を 祝して

法政二高 同窓会会長 和田龍宏

てこそ成し遂げられたものと思えます。
六十年という校歴は決して古いものではありませんが、教育に携わる素晴らしい先生、そして充実した教育内容、さらに教科外活動にも積極的に指導された教育方針が今日の一高の姿であると思えます。
ここに、創立六十周年を期し貴校の更なる発展と飛躍を期待するものであります。
私の好きな言葉に『脚下照顧』という禅語があります。
常に足もとをみつめ、自己反省をしながら将来を展望し、希求する……私なりの飛躍した解釈でもありますが、ともに母校の発展を冀い、この警語を指針として、同窓会発展のため精進したいものであります。
ここに、法政一高創立六十周年を迎えるにあたり、二高同窓会を代表して心から貴校の発展と栄光をご祈念申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

祝創立六十周年 夢を描きましよう

法政女子高 同窓会会長 近藤静子

創立六十周年、おめでと
うございます。
法政大学附属校同窓会役員
の交流を始めてから十一年に
なりますが、交流前は一高や
二高、そして、工業の同窓会
の実態はまったく知りませ
んでした。

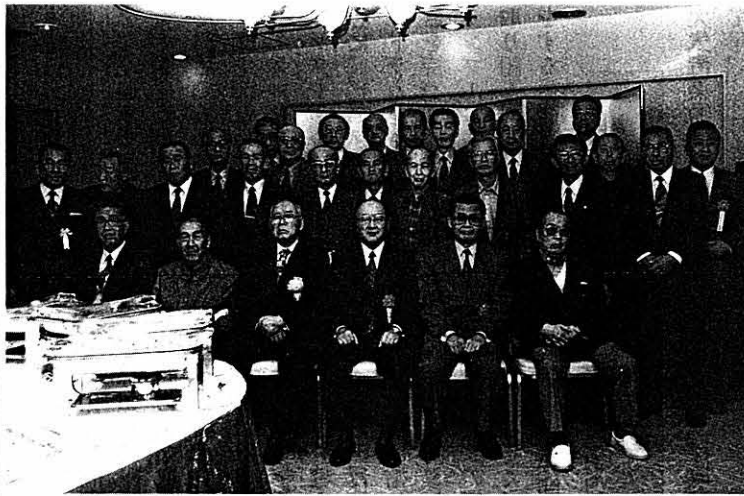
十年前、一高五十周年の同
窓会記念行事に女子校同窓会
役員もご招待頂きました。男
子校の同窓会ということで少
しためらいながら会場の体育
館へ入りました。なんと全員
男性ばかり！(当然のこと
ですが…)、しばし茫然とし
会場の雰囲気は馴れるまでに時
間がかかりました。

時間がたつにつれ、一高の
同窓会会員の皆様の結束の強
さ、たのもしさを感じ、男性
のパワーに圧倒されました。
あれから十年、会員数も増
え、同窓会の活動もさらに活
発になり、増々充実した運営
をされていることが会報を拝
見して感じました。

特に校長先生のお言葉で、
“自己の内面に何かに立ち向か
う夢を描くことが大切である”

と書かれております。この“夢
を描く”、何か忘れていたこと
を思いおこされ熱いものを感じ
ました。

戦後の日本は急速な変化を
し、あまりの速さにとまどい
さえ感じる今日、ほしい物は
どんな物でも手に入り、何の
不自由のない生活、一見平和
幸福であるかのような錯覚さ



えおぼえます。子供や老人に
とってはなかなか追いついて
いけない時代ではないでしょ
うか。このような時代だから
こそ“夢を描く”という言葉
はほっとするひとことだと思
います。

クラス会・同期会 OB会だより

卒業五十周年記念
“法隆会”の集い

旧制中学校6期生の方たち
が卒業五十周年記念を祝して

我々、附属各校同窓会も会
員の皆様と一緒に後輩や母校
のために、よりよい同窓会に
なりますよう共に頑張りまし
よう。

平成7年11月18日(土)、神楽坂
の日本出版クラブ会館におい
て“法隆会”を開催されまし
た。法隆会は法政の法と恩師
寺本隆雄先生の隆をいただき

会名とされたこのことです。

会は午後一時から吉田昭典
氏の司会で始まり、世話人代
表の井口健一氏の開会挨拶、
恩師寺本先生の祝辞、大石同
窓会会長の来賓祝辞と進み、
川口忠雄氏の開宴挨拶後、上
蘭豊郎氏の乾杯で祝宴に入る
と一挙に盛り上がり、楽しい
笑い声と笑顔に満ち溢れるす
ばらしい会となりました。

当日は二十八人の方たちが
出席され、同窓会からも大石
会長、鈴木総務委員長、黒澤
広報委員長の三人がお祝いに
加えさせていただきますが
先輩の皆様方の若々しいご様
子に圧倒される思いでした。

会は旧中学校校歌、現校歌
の斉唱と田辺明彦氏の閉会の
挨拶で終了、再会を約して散
会となりました。(黒澤)

写真上：法隆会の皆様
野球部OB主体の
懇親会開催

元一高野球部監督をされた
成澤康夫氏(中2期)を囲み
期や部を超えた懇親会が平成
七年七月十一日に有楽町ニュ
ートーキョー7Fで開催され
ました。期を超えてと言っ
ても、成澤、黒澤の両先輩以外
は皆さん昭和20年代の卒業の
ため当時の思い出話は“練習

場がなかった、食べる物がな
かった、用具がなかった”の
ないないづくしの話題が多か
ったのも無理はありません。

この会は、同窓会の大石会
長が声をかけられて開催され
たのですが、野球部OBだけ
でなく当時、法大応援団長を
された黒澤孝道氏(中3期)、
長年、法大本部職員を務めら
れた田沢重昭氏(中7期)左
の強打者としてチームをリ
ドした遠藤静男氏(旧姓原、
中9期)、後にプロで活躍した
中野健一氏(高4期)、社会人
野球(大和証券)で大活躍し
た松本陸郎氏(高5期)らが
参会した小形の同窓会とい
う感じの会となりました。

会員の方たちもこのような
会を時々開催されてはいかが
でしょうか。同窓会というだけ
で身内のように楽しい会とな
ることうけあいです。

写真下(高3期・黒澤元孔)
同窓会年会費
お振込みのお礼

平成七年度は本年三月九日
現在、五九一人の方から合計
一六八万円が振込まれました。
お振込みまことにありがと
うございます。本年も同封振
替用紙にてお振込みをいただ
きますようお願い申し上げます。

ギター部



派手でなく、音楽を楽しみながら演奏し、造り出す活動。ギター部について一言で表すとこんな感じであろうか。25年くらい前までであったマンドリンクラブを前身とするギター部は、音楽を愛する心を重視し、話し合いを持ち、音

楽を深く追求する若者が集まってくる。そんな雰囲気を持った部活である。

ギター部という名称であるが、クラシックギター、フォークギター、エレキギターを中心に、ピアノ、ベースギター、ドラムをも演奏する幅の広さを持っている。そしてアンサンブルによる音楽づくりに取り組んでおり、中には作曲をする生徒もいる。

物理化学部

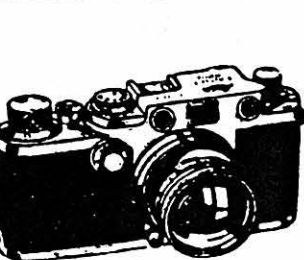
大気汚染物理の測定を開始して早、20年ほどになります。その間、測定器具の改良や薬品の選択、数値処理の簡便化など様々な工夫を行ってきました。その中で、いまだ検討を要するのが発色薬品の選択です。現在は発色剤として、スルファニル酸、ナフチルアミンを使っていますが、大気中の一酸化窒素や二酸化窒素を吸収した溶液とこの発色剤を反応させてできるアゾ色素の発色が少なく、分光光度計で吸光度を測定する場合でもそれが低いために、データとしての信頼性に欠ける部分がある。

活動日は水・金曜日の週二回で、音楽教室Aで練習している。休み期間中も地道に活動している。

年間の主な取り組みは、文化祭での演奏や新入生への部活動紹介の際の演奏があるが、文化祭では、学年ごと、あるいはその枠を越え、曲目を決めその曲の練習に励み、質の高い演奏を目指している。

今後の計画としては、文化祭以外の発表の場として、定期演奏会も考えていきたい。

〈顧問 小出 伸〉



写真部

も時間を節約し、操作を簡便化して行うことができるか、その辺の研究を行っています。最近、子供の理科ばなれが顕著になってきている傾向の中で、部員数も以前よりは少

現在、写真部の実働部員は全学年合わせても少数で、一言で言い表すならば「少数精鋭」のクラブです。顧問は英語科の吉本先生と、社会科の若宮先生にご担当いただいております。

活動としては、週一回の集会和年数回の撮影会と学校行事の撮影等を行い、その他の時間は各個人が自発的に写真を撮っています。そして、これらの活動の成果として、撮りだめした写真を文化祭で発表しております。

95年度の文化祭はというと概ね好評で、特に今年から試

バスケットボール部

現在、法政一高バスケットボール部は、二年生三名、一年生十五名の十八名で活動を行っています。活動日は火水金土日、日曜日には、練習試合も行っています。

三年生が引退した後、六月から新チームとなり、秋の新人戦に向けてスタートしました。今年度は、久々に第四支部でベスト8となり、一月には本大会に出場することができました。本大会では、惜しくも初戦で負けてしまいました。が、この経験をばねに現在では、四月の関東大会都予選に向けて、新人戦以上の結果

す。当部は体育会系の部活とは違い、部費で買っている物のほとんどが消耗品で、それがなければままたない部なのです。部費が多ければもっと思い切った活動や企画が出来る、ひいてはそれが新入部員の増加へと繋がるのでしようが、今は少ない部員が自腹を切って現状を維持している状態なのです。

こんな状態のクラブですが、みんな仲良く頑張って活動しています。

〈部長 三浦 知樹〉

を出そうと、チームの意識も高まり、とても充実した状態です。

今年度は二年生が三人という少人数ですが、一年生の頑張りとチームもよくなるとまっています。

また、OBの方々にも時々、練習に協力していただき、大変助かっております。これからもOBの皆様の温かいご支援、ご指導をいただきますよう、よろしくお願いたします。

バスケットボール部主将 木村雄治

バレーボール部は、平成八年三月現在、二年生四名、一年生八名計十二名の部員が顧問の清水則康先生のもと活動しております。練習は火木金土の放課後に約三時間半行い、さらに日曜・祝日にはよく練習試合をしております。

バレーボール部

中学生と体育館を共用しているために、他の学校に比べて練習量が少なくなってしまうのですが、そのような状況の中で昨冬の私学大会では関東大会のBブロックで八強に入ることができました。清水先生の指導はもちろんのことバレーボール部のOBの方がしばしば学校に來られて、後輩の面倒を見てくださった結果だと思っております。

さて、今年のバレーボール部の特徴ですが、高校に入ってからバレーボールを始めた生徒が多いことです。中学からの経験者とはスタートラインが違っているのですが追いつこうと一生懸命努力を重ねています。一戦一戦を大切に

「試行錯誤の第一歩」

生徒会活動の現況

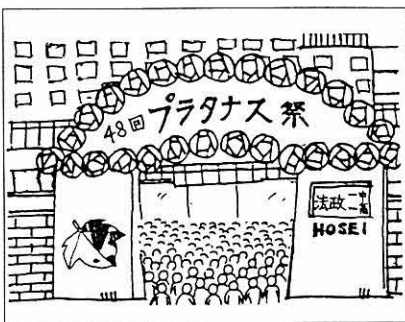
生徒会担当教員 末益 直子

同窓会の皆さんに一中・高の現状を伝えたいというため、生徒会活動について特徴的なことを紹介いたします。

平成七年度の生徒会活動は、今までに一定の成果をあげてきた活動に対し、さらに新しいことに挑戦し続けてきました。最近の学生生活にみられる『とりあえずこなす』という考え方を打破し、様々なアイデアを具体化していきました。

最大行事である文化祭は、特に目を見張るものがありました。前年度は、文化祭の様子を校舎の位置にかけた『熱い

プラタナス祭』というイベントを行いました。今年度は、文化祭の様子を校舎の位置にかけた『熱い



プラタナス祭』というイベントを行いました。今年度は、文化祭の様子を校舎の位置にかけた『熱い

して一つでも多く勝ってもらいたいと願っております。支部大会は本校で行われて

〈副顧問 堀内健司〉

いますのでぜひ後輩の試合を応援しに来てください。

やはり、その前提にあるのは『自分達のために』という考えではないでしょうか。最近の生徒は学校生活に目が向いていないといわれますが、学校外だけでなく校内でも楽しまなければもったいないという気持ちを持った生徒が一步步前進し、まわりを引っぱっている様です。生徒自身が主体性と創造性を多に発揮し、一年間取り組んだすべての活

教職員人事異動

一中・高 矢口 五郎

退職(教員)

岩上 博司先生(国語)



岩上先生

昭和三十一年から四十年間勤められた先生が定年退職されました。長く文芸部、文研の顧問をされ、最近では高3の古典を主に担当、PTA誌の仕事もされてきました。退職にあたり子の親となった同窓生諸君に、「当時の自分の親のことを思っ子育てをしてほしい」と言われています。

また、生徒会行事は文化祭だけでなく、中・高別々に多方面で発展を続けています。

動が「試行錯誤の第一歩」になったと思います。平成八年度には、創立六十年を迎えます。この大きな区切りの時、生徒の意欲的活動を活かすも殺すも教員の心持ち次第かもしれません。同窓生の皆さんが作り上げた伝統を受け継ぎつつ、更なる飛躍を遂げたいと思います。大勢の方のご来校をお待ち致しております。



佐見先生

して、二年前に着任されましたが、一身上の都合で退職されました。先生は、保健室を生徒が自分でからだや心をいやすことを考える場と提起され、活動して来られました。退職にあたり生徒に、「弱者のために戦う勇気を持つてほしい」と話されています。

新任(教員)

国語科 坂上 卓男先生

理科(生物)小川 大朗先生

専修大学卒

今年度も若い二人の専任の先生を迎えます。ご活躍を期待します。

職員人事

庶務係の丸山 悟先生が、大学の施設部管財課に転出されました。

後任には、学務部教養部事務課より神長謙次郎さん(一高同窓生)が着任されました。

同窓会

高48期クラス

委員決まる

同窓会新入会員(高48期卒)の各クラスまとめ役として左記の方たちが決定しました。

皆さんには48期の方全員の消息をよくつかんでいただき同窓会運営にご協力願います。

級委員	1組	南川昌敏
1組	宮下直宗	
2組	佐竹秀人	
3組	千種大介	
4組	阿部和史	
3組	曾根保彰	
4組	桐山 剛	
5組	中野 威	
5組	永井健太	
6組	神永和洋	
6組	前田嘉之	

表1. 平成8年度 中・高入試状況

	募集定員	志願者数	合格者数
中	105名	808名	225名
高		推薦入試 19名	19名
		一般入試	
	156名	A,Cコース 165名	26名
		B,特コース 293名	123名
	計	477名	168名

表2. 法政大学学部別進学者数 (平成8年3月卒業生)

学部・学科	1部	2部	計
法政	28	2	30
	16	1	17
文	5	—	5
	6	2	8
	4	0	4
	2	—	2
	2	—	2
	—	4	4
計	61	7	68

経済	商業	44	3	7	51
		—	4	—	4
社会	政策	13	1	1	15
	会	15	—	—	15
経営	営	44	—	—	44
工	学	11	—	—	11
	機	3	—	—	3
	物	7	—	—	7
	電	4	—	—	4
	子	5	—	—	5
	情	5	—	—	5
	報	7	—	—	7
	システム	2	—	—	2
	制御	—	—	—	—
	土木	—	—	—	—
	建築	—	—	—	—
	工学	—	—	—	—
計		223	17	—	240
推薦率		83.8%	6.4%	—	90.2%

「法政ファミリー」の
大切さを胸に
一中・高入学試験を終えて
入試委員会代表 小林 邦久

平成8年度の入学試験は、一月十七日の高校推薦入試をはじめとし、二月三日の中学入試、二月十五日の高校一般入試とすべて無事に終了することができました。

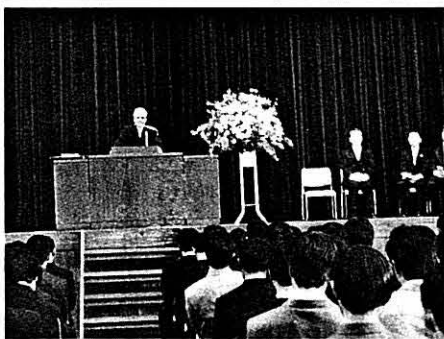
近年の入学試験でひしひしと感じられるのは、年々就学者人口が減少しているということ。勿論これは受験者数や入学者数にも影響が出て

います。(表1)各私立学校でもこの対策についてはいろいろと検討されているようです。本校も「法政の良さを広めること」や「入試制度の検討」を常に行うと同時に、本校を第一希望とする受験生を大切にしたい活動が展開できました。また、今年度は法政大学への推薦率が数%上がったため、有資格者がほとんど法政大学

へ行けるようになり、(表2)ますます「法政ファミリー」を大切に考える時代となってきたということが出来ます。これもひとえに、同窓生の皆様によって築かれた実績とご努力の表れだと確信し、たいへん感謝しております。

ところで、今年度の入試委員は4月当初から、本校の良「のアピールを意識して活動してきました。広告やポスターの掲載、入試説明会の充

歓迎！ 高校48期卒 267人の方が新入会



平成7年度の高卒卒業証書授与式(左写真)は、三月十二日に高校の体育館講堂で行われ、二六七人の方たちが晴れて卒業されると同時に

同窓会に入会されました。同窓会一同心からお祝いを申し上げ、皆さんの入会を大歓迎いたします。

青春の一時期を明るく伸び伸びとした一高で学び、その間に培った生涯の友人との友情、信頼を大切に同窓会活動にもご参加下さい。

中学は三月十八日に下森総長を迎えて行われましたが、総長自らの祝辞に卒業生と参加した父母の方たちも感激した面持ちで聞き入っていました。

新入会の皆さん方は48期同窓

実、熟等で行っている学校紹介への参加、その他、学校訪問等の柔軟な対応などを行いました。しかし、まだまだ「法政教育の真の暖かさ」や「自主的に自由な活動ができる良さ」などを充分理解していただけていない部分も感じられます。そこで、来年度はさらに「法政アピール」を意識して活動していきたいと思っています。

我々全校教職員は、今一丸

同窓会事務局からのお願い

会クラス委員の方たちと常に連絡をとり、住所不明などにならぬよう住所移転などの際は必ず委員の方に届け出をされるようお願いいたします。

会員の方で住所移転、勤務先変更、改姓などのあった場合には直ちにお届け下さい。ご連絡の方法は、必ず郵送またはFAX(042221214633、直村あて)でお願いいたします。お電話でのご連絡はご遠慮願います。同窓会事務局の宛名は本紙一面題字下に記載されています。窓口は50周年記念会館1F第2小会議室内です。

編集後記

本年、母校は創立60周年を迎えました。同窓会では創立記念祝賀総会を6月29日に開催いたします。会員皆様には奮ってご参加下さるようご案内いたします。この記念すべき年に合わせたように、「21世紀の法政」に向けて附属校の役割が一段と重要視されてきました。また、大学評議員の選挙規則も大改正されました。この一連の未来への発展的なプランを実現し支えていくためにも同窓会は、積極的に活動しなければならぬのではないかと思います。▼本号には、他の附属校同窓会会長の皆さんから祝辞を頂きましたが、全附属校が結束を固め、いろいろな面でオール法政の核になるよう充実発展を遂げたいものです。▼中学の卒業式で、総長は「自由と自己責任について、量より質への変革、発想の転換、国際化への適応、失敗の原因を正す」など五項目を柱とした祝辞を述べられ、校歌の一節、進取の気象、質実の風」をモットーに活躍して欲しいと結ばれました。同窓会員もこれに応えたいものです。

(黒澤九孔)